

小都市の人権・同和保育の取り組みは、30周年を迎えました

昭和57年4月、筑後地区で初めての同和保育所として、小都市に大崎保育所が設立され、30年を迎えました。

被差別部落の保護者の就労保障と子どもたちの教育権の保障を目的として起こった運動の中で設立されたのが、同和保育所です。すべての子どもたちへの人権に対する感性を高める保育を目指し、今ではそれが人権・同和保育へと市内全域へ広がっています。

そして、これを記念して、10月20日に生涯学習センターで約320人の参加のもと、人権・同和保育30周年記念事業実行委員会主催の記念式典が行われました。

小都市では、部落差別をはじめとするあらゆる差別の解消にむけて社会教育・学校教育・就学前教育とそれぞれの分野で人権・同和教育や啓発活動をおこなっています。今後も大崎保育所を中心に、人権・同和保育の一層の深まりと拡がりを求めて、取り組んでいきます。

30周年記念啓発DVD放映

大崎保育所設立から30周年という節目の年にあたり、設立当初を振り返り、啓発につなげようということで、DVDが作成されました。

当時の保護者の設立に向けた熱い願いや、保育所職員の思い、人権・同和保育を進めていった経過などがDVDの中に収められ、式典の中で放映されました。



オープニングイベント・子ども参加型事業



公立保育所3園の5歳児が人権ソング「ありがとうのうた」「いのち」を歌いました。歌詞は公募しました。



式典に参加した子どもたち全員で共同製作に取り組みました。テーマは「みんなで手をつなごう」



完成した作品と子どもたちです。テーマのように、これからもしっかりとつながっていきましょう。

記念講演

松崎一さんにより「豊かな心田を耕された子どもたちがつくる人権の街」という演題で記念講演が行われました。

松崎さんは、福岡県で最初の保育料無料の無認可同和保育所「しおんえん」を開設され、その後「川崎町立同和保育所」を設立。大崎保育所の設立時にも、多くのご指導ご助言をいただきました。

乳幼児期は、家庭・地域・保育所や幼稚園などにおいて、差別を許さない豊かな感性を育む大切な時期であり、児童生徒期にはその感性を磨き、正しい知識を身につけることが重要であると話されました。

